

知の市場
—実績と計画—

(2013 年度実績と 2014 年度計画版)

1. 理念と運営

「知の市場(FMW : Free Market of・by・for Wisdom)」は、「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して、人々が自己研鑽と自己実現のために集う場である。そして理念と基本方針を共有しつつ協働する受講者、講師、友の会、開講機関、連携機関、連携学会、協力者・協力機関、有志学生実行委員会、知の市場事務局などが自立的で解放的な協力関係を形成しながら、それぞれの立場を越えて自律的な判断により自ら活動する場 (Voluntary Open Network Multiversity) である。

「知の市場」は、大きな時代の潮流を先導し、社会人教育と学生や院生に対する学校教育とを切れ目なく連結し、さらにプロ人材の育成と高度な教養教育を相互に補完しあうものとして接合することを目指している。加えて、社会の全ての人々や組織が何らかの形で教育に関わり全員参加の中で各々の役割を果たして教育を支え、そして教育の世界と現実の世界が互いに重なり合いながら高めあっていく、そうした真の教育立国を求めている。それによって津々浦々で諸々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ社会の構築に向かって、道を切り開いていくことが知の市場の課題である。

「知の市場」は、総合的な学習機会の提供、実践的な学習機会の提供、充分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価という 4 つの教育の基本方針の下で活動する。そして開講機関が主催し連携機関の協力を得て知の市場とともに開講する共催講座と、共催講座での経験などを活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって開講機関が「知の市場」の理念を共有しながら独自に開講する関連講座で構成されている。

「知の市場」は、それぞれの機関や個人の自発的な参画と自主的な活動を基本に据えた理念の下、運営の基本方針、諸規定、運営体制などを公開している。そして受講修了証などの諸様式・マニュアルや「知の市場」のロゴマークなどの統一と標準化を進め、共通受講システムを共有しながら参画機関のホームページを相互にリンクすることなどにより協働の基盤を整備し、相互扶助と相互検証を通して連携の強化と教育水準の維持向上を図っている。

「知の市場」は、理念を構築し人の輪を形成し始めた黎明期（～2003 年度）を経て、化学生物総合管理の再教育講座としてお茶の水女子大学を拠点に第Ⅰ期（2004－2008 年度）の活動を開始し、開講機関や連携機関などとの協力関係を拡充しつつ講師や受講者との人の輪を拡大して全国から大きな反響を得た。そして政府や大学からの資金提供などを求めず自主的かつ自発的な教育活動であることを鮮明に掲げた第Ⅱ期（2009－2012 年度）には、視野を拡大しながら全国に開講拠点を拡大しつつ自主的な活動として知の市場を新展開した。これらの実績を踏まえながら、第Ⅲ期（2013－2015 年度）は活動をさらに進化させることによって自立的でかつ自律的な活動としての知の市場の確立を目指している。

2. 2014 年度開講計画

第Ⅰ期、第Ⅱ期及び第Ⅲ期の初年度にあたる 2013 年度の実績を踏まえつつ、第Ⅲ期の中間年度である 2014 年度は知の市場が目指す自立的にして自律的なボランティア体制の完成に向けて取り組みを強化する。

2014 年度は共催講座と関連講座を加えた全体で 628 名の講師陣の参画により全国 39 拠点で 87 科目を開講する。第Ⅰ期、第Ⅱ期に比べて第Ⅲ期の拠点数は大幅に増加しており、知の市場の全国展開と多様化が進展している。第Ⅲ期の初年度の 2013 年度と比べて、2014 年度は科目数は 4 科目増加するが講師は 177 名減少する。これは、1 科目を多数の講師が担当するオムニバス形式の科目が減少し、1 科目をひとりの講師が担当する科目が 29 科目と大幅に増加したためである。

表 1 開講状況の推移（拠点・科目・講師）

年度		第Ⅰ期	第Ⅱ期	2013	2014
共催講座	拠点	2(1)	15(4)	22(5)	18(5)
	開講科目	44	44	41	42
	講師	346	401	413	337
関連講座	拠点	—	14(5)	16(4)	21(9)
	開講科目	—	41	37	47
	講師	—	251	356	291
合計	拠点	2(1)	29(10)	38(9)	39(14)
	開講科目	44	85	78	87
	講師	346	625	769	628

注 1：第Ⅰ期の値は「化学・生物総合管理の再教育講座」として開講した 2004～2008 年度の 5 年間の平均値を示す。第Ⅱ期の値は 2009～2012 年度の 4 年間の平均値を示す。

注 2：括弧内は東京以外の拠点数で内数。

（1）開講機関と連携機関

2014 年度の開講機関と連携機関の合計は 59 機関である。第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は大幅に増加している。

2014 年度の内訳は専門機関・研究機関 8 機関、公共団体 3 機関、産業界・業界団体 15 機関、大学 19 機関、学会 6 機関、消費者団体や市民団体などの非営利団体他 7 機関、市民 1 名である。第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して、第Ⅲ期は現場基点の強化の流れにより産業界・業界団体が増加した。2014 年度は 2013 年度に比べて、大学が 3 機関、消費者団体や市民団体などの非営利団体他が 1 機関減少するが、公共団体が 2 機関、産業界・業界団体が 1 機関、学会が 2 機関増加し、開講機関・連携機関の多様化が進んでいる。

表2 開講状況の推移（開講機関・連携機関）

年度		第Ⅰ期	第Ⅱ期	2013	2014
開講機関・連携機関		26	41	58	59
	開講機関	2	30	39	38
	連携機関	24	38	47	46

注1：第Ⅰ期の値は「化学・生物総合管理の再教育講座」として開講した2004～2008年度の5年間の平均値を示す。第Ⅱ期の値は2009～2012年度の4年間の平均値を示す。

注2：開講・連携機関の値は、開講機関と連携機関の値の合計を示すが、両方の役割を担っている機関を1つの機関として計上するため、それぞれの値の単純合計とは合致しない。

1) 開講機関

2014年度の開講機関は共催講座が21機関、関連講座が24機関で、共催講座と関連講座両方で科目を開講する機関の重複を除いた合計は38機関である。第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は順調に増加している。

2014年度の内訳は専門機関・研究機関7機関、公共団体3機関、産業界・業界団体7機関、大学16機関、学会0機関、消費者団体や市民団体などの非営利団体他5機関、市民（個人）0名である。第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して、第Ⅲ期は現場基点の強化の流れにより産業界・業界団体が増加した。2014年度は2013年度と比べて、産業界・業界団体が3機関、大学が2機関減少するが、専門機関・研究機関が1機関、公共団体が2機関、消費者団体や市民団体などの非営利団体他が1機関増加し、開講機関の多様化が進んでいる。

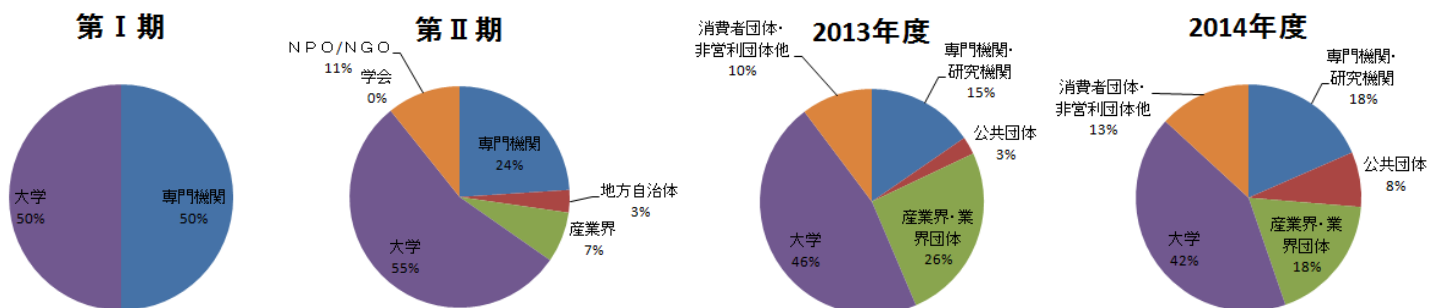


図1 開講機関の内訳（第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度、2014年度）

2) 連携機関

2014年度の連携機関は共催講座が28機関、関連講座が23機関で共催講座と関連講座両方で科目を開講する機関の重複を除いた合計は46機関である。第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は順調に増加している。

2014年度の内訳は専門機関・研究機関7機関、公共団体3機関、産業界・業界団体11機関、大学13機関、学会6機関、消費者団体や市民団体などの非営利団体他5機関、市民（個人）1名である。2014年度は2013年度と比べて、専門機関・研究機関が1機関、大学が4機関、消費者団体や市民団体などの非営利団体他が2機関減少するが、公共団体が2機関、産業界・業界団体が2機関、学会が2機関増加し、連携機関の多様化が進んでいる。

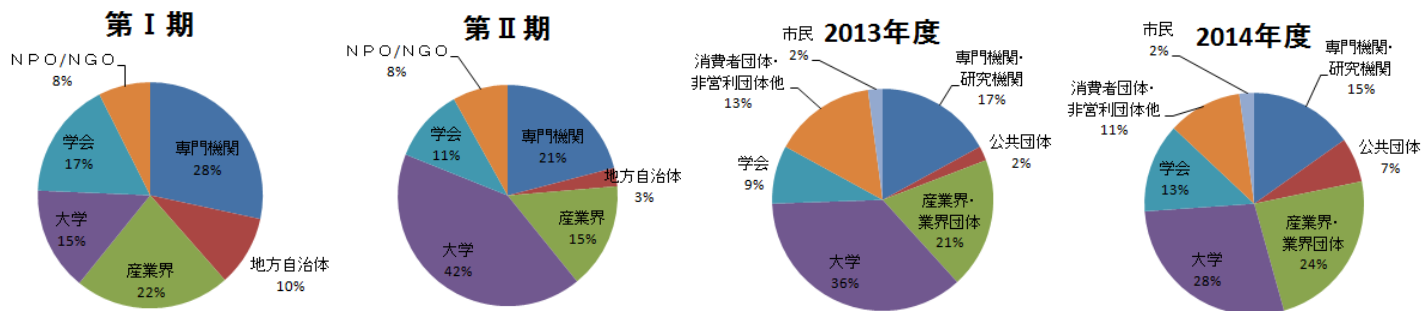


図2 連携機関の内訳 (第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度、2014年度)

(2) 講師

2014年度は講師陣として様々な実務経験を豊富に有する専門家628名が参画する。第Ⅰ期に比べて第Ⅱ期は2.5倍に増加した。第Ⅲ期の初年度の2013年度はさらに増加して769名に達したが、2014年度は1科目を多数の講師が担当するオムニバス形式の科目が減少して1科目をひとりの講師が担当する科目が29科目と大幅に増加したため、2013年度に比べて141名減少し、第Ⅲ期の平均は第Ⅱ期と同様な水準である。

1) 共催講座

2014年度の共催講座の講師は337名である。2014年度の内訳は産業界・業界団体107名、専門機関・研究機関170名、消費者団体・市民団体1名、大学・学会49名、地方自治体・行政機関10名、マスコミ0名、市民(個人)0名である。第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は現場基点の流れの強化により専門機関・研究機関が増加し、第Ⅱ期に減少していた産業界・業界団体も増加している。2014年度は2013年度と比べて、産業界・業界団体が減少する一方で、専門機関・研究機関、大学・学協会の割合が増加する。

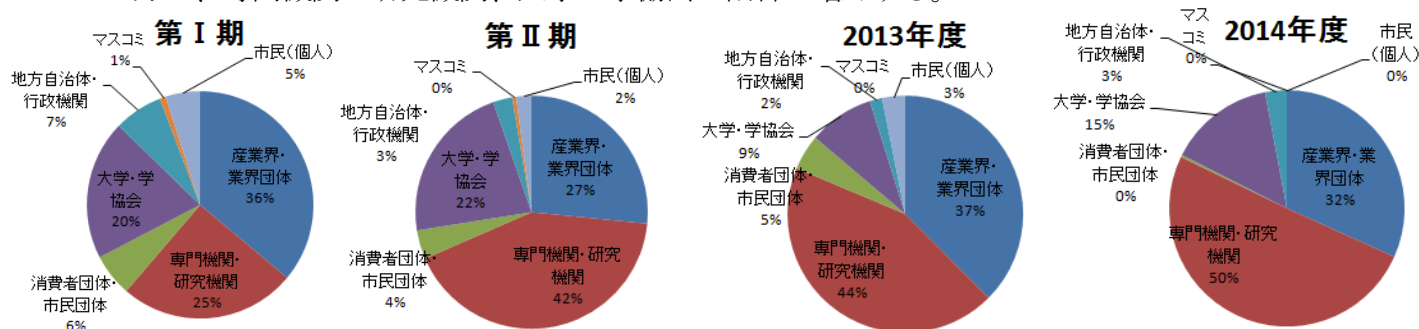


図3 講師の所属 (共催講座) (第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度、2014年度)

2) 関連講座

2014年度の関連講座の講師は291名である。2014年度の内訳は産業界・業界団体44名、専門機関・研究機関28名、消費者団体・市民団体5名、大学・学会196名、地方自治体・行政機関16名、マスコミ0名、市民(個人)2名である。2014年度は2013年度と比べて、産業界・業界団体、専門機関・研究機関の割合が減少する一方で、大学・学協会の割合が増加する。

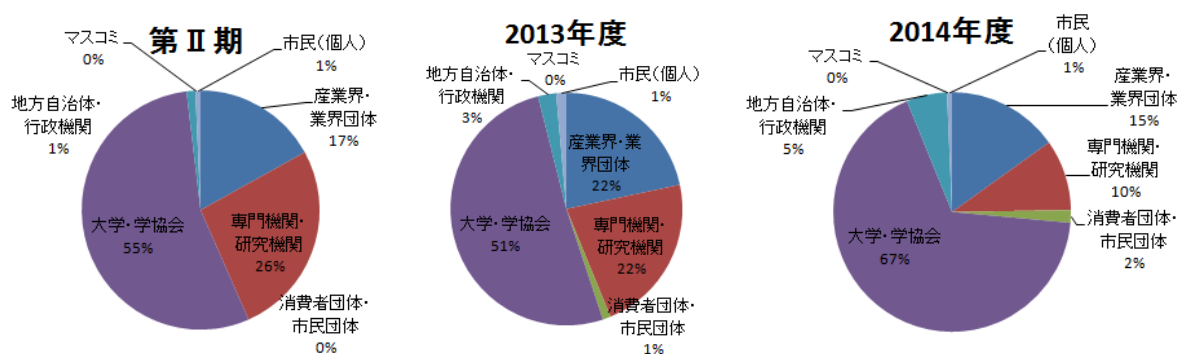


図4 講師の所属（関連講座）（第Ⅱ期、2013年度、2014年度）

（3）開講科目

2014年度の共催講座と関連講座の科目数の合計は87科目である。第Ⅰ期に対して第Ⅱ期にほぼ2倍増した後、第Ⅲ期はこの水準を維持している。

2013年度に引き続き共催講座の科目を分野別に分類して位置付けるとともに水準別に分類して位置付ける。関連講座は4つに分類して位置付ける。また、知の市場の構造に従って科目を社会人教育と学校教育及びプロ人材の育成と高度な教養教育の組み合わせによる4つの象限に整理して位置付ける。

1）共催講座

2010年度が生物総合経営、コミュニケーション、総合（医療・保健、労働、食・農、鉱工業製品・医薬品、環境）、社会変革と技術革新の5つの大分類で構成していたのに対して、2011年度に地域の1分野を、2012年度に国際、教育・人材育成、芸術・技芸の3分野を追加して9つの大分類とし、さらに開講する領域の多様化を図った。

2014年度の共催講座の開講科目の大分類毎の割合は、化学物質総合経営21%、生物総合経営14%、コミュニケーション0%、分野別総合管理31%、社会技術革新19%、地域7%、国際2%、教育・人材育成5%、芸術・技芸0%である。第Ⅲ期は第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して多様化が順調に進んでいる。2014年度は2013年度と比べて、コミュニケーション、社会技術革新などの割合が減少する一方で、化学物質総合経営や分野別総合管理の割合が増加する。

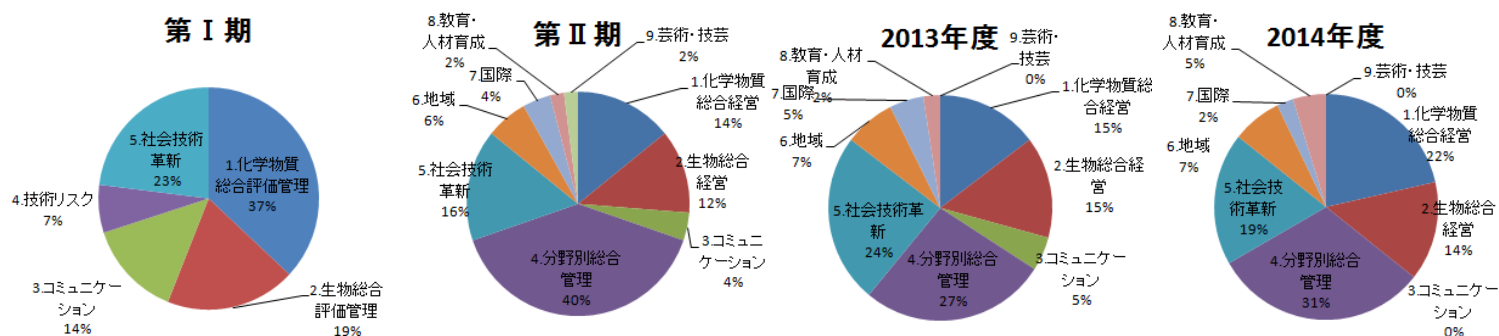


図5 開講科目（共催講座）の大分類（第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度、2014年度）

また、基礎、中級、上級の3つの水準に科目を分類して比較すると、第Ⅰ期から第Ⅱ期に移る際に基礎が減少して上級が増加したが、第Ⅱ期から第Ⅲ期に移るにあたって上級が減少し、第Ⅲ期は中級が大勢を占めている。2013年度は2014年度と比べて、同様な水準である。

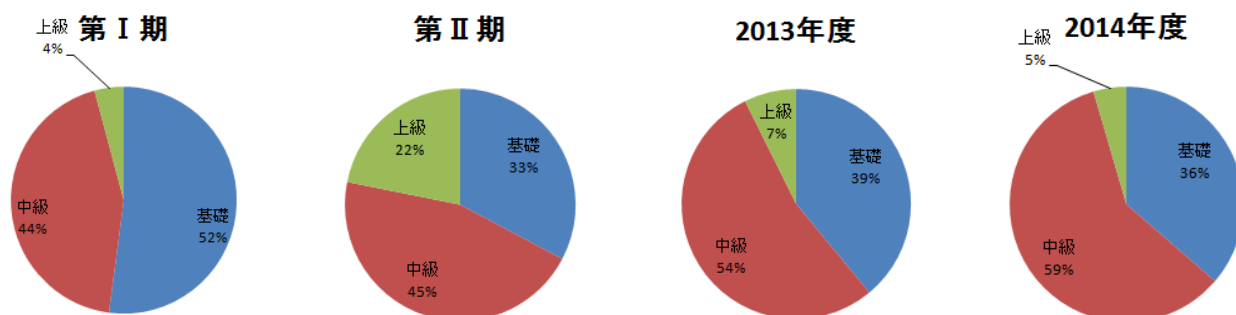


図6 開講科目（共催講座）の水準（第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度、2014年度）

2) 関連講座

第Ⅰ期には存在しなかった関連講座の科目を第Ⅱ期から開講したが、第Ⅲ期は科目数が若干減少している。引き続き、教養編、専門編、研修編、大学・大学院編の4つに分類して比較すると、第Ⅱ期に比べて第Ⅲ期は大学・大学院編が減少する一方で、教養編の割合が大幅に増加している。2014年度は2013年度と比べて、大学・大学院編が減少する一方で、教養編の割合がさらに増加する。

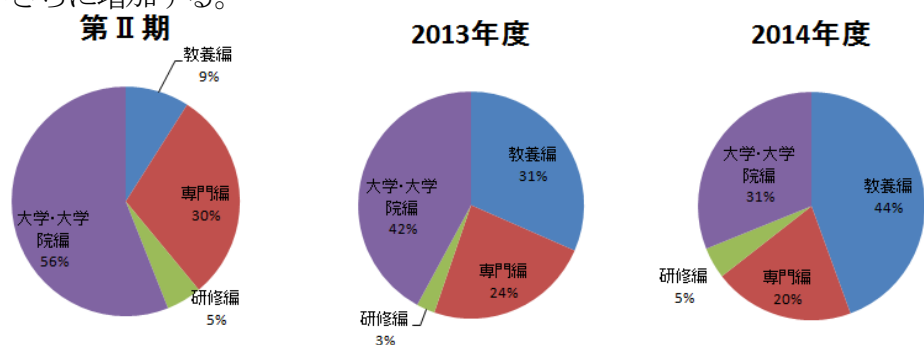


図7 開講科目（関連講座）の分類（第Ⅱ期、2013年度、2014年度）

2014年度の関連講座の開講科目の大分類毎の割合は、化学物質総合経営 20%、生物総合経営 2%、コミュニケーション 13%、分野別総合管理 38%、社会技術革新 11%、地域 7%、国際 7%、教育・人材育成 0%、芸術・技芸 2%である。第Ⅲ期は第Ⅱ期に対して多様化が順調に進んでいる。2014年度は2013年度と比べて生物総合経営、分野別総合管理などの割合が減少する一方で、コミュニケーション、地域、国際、芸術・技芸の割合が増加し多様化が大幅に進んでいる。

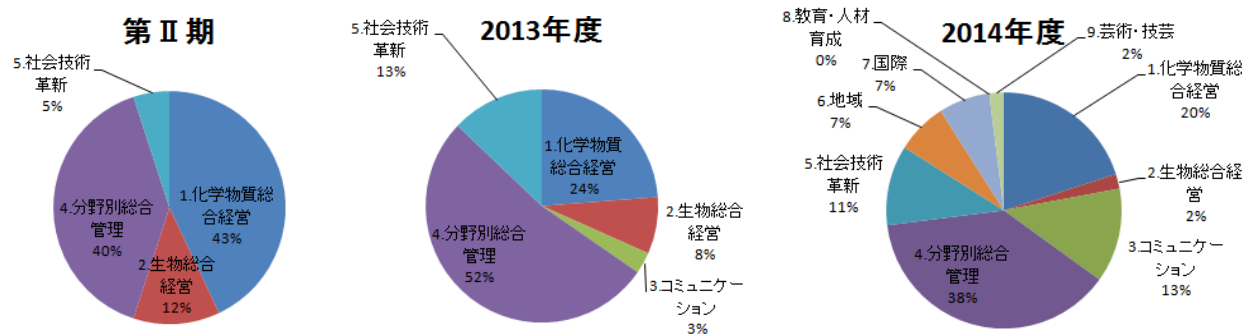
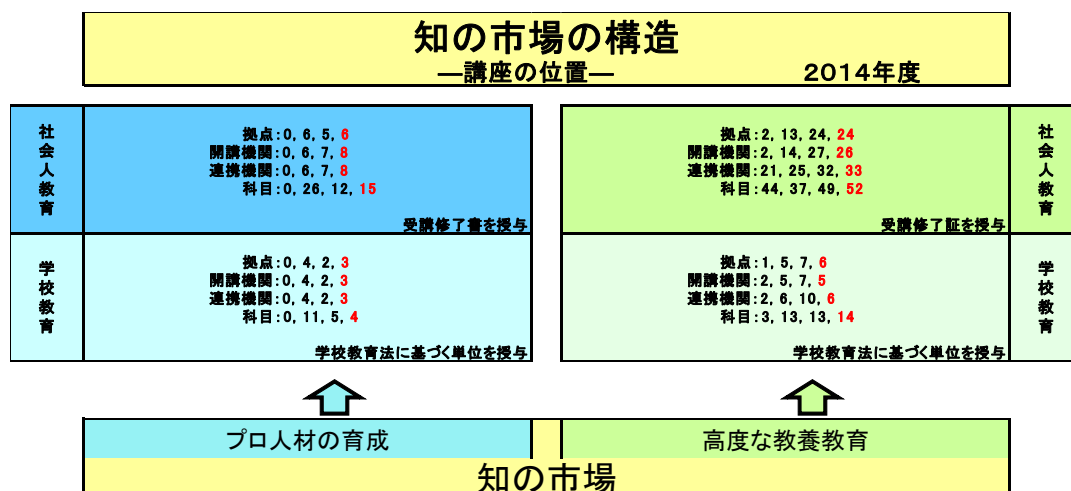


図8 開講科目（関連講座）の大分類（第Ⅱ期、2013年度、2014年度）

3) 知の市場の構造における位置づけ

引き続き知の市場の構造に沿ってプロ人材の育成と高度な教養教育及び学校教育と社会人教育の観点から分類して4つの象限に科目を位置付ける。

第Ⅰ期、第Ⅱ期に対してプロ人材の育成のための科目が減少する一方で、第Ⅲ期は高度な教養教育としての社会人教育のための科目が増加している。



注: 数字は左から順に第Ⅰ期の平均値、第Ⅱ期の平均値、2013年度の数値、2014年度の数値を示す

図9 知の市場の構造—講座の位置付け (2014年度) —

(4) 友の会と協力者・協力機関

2014年6月5日現在において友の会会員4621名、協力機関80機関である。第Ⅰ期、第Ⅱ期に比べて、第Ⅲ期は友の会会員、協力機関ともに増加しており、知の市場に係る情報を共有しつつ講座の受講、開講場所の提供、広報の実施などへの自主的かつ自立的な参画と支援・協力が拡大している。

表3 開講状況の推移 (友の会・協力機関)

	第Ⅰ期	第Ⅱ期	2013	2014
友の会会員	2857	3333	5126	4621
協力機関	—	60	84	80

注1: 第Ⅰ期の値は2004～2008年度の5年間の各年度末の数字の平均値を示す。第Ⅱ期の値は2009～2012年度の4年間の各年度末の数字の平均値を示す。

注2: 2013年度の値は年度末の数字、2014年度の値は2014年6月5日現在の数字を示す。

3. 2013年度受講実績

(1) 受講状況

第Ⅰ期の受講者に比べて第Ⅱ期は3倍に増加したが、第Ⅱ期の後半は東日本大震災や福島原子力発電所の事故の影響により減少した。2013年度の受講者は第Ⅱ期の平均と比べて減少したが、東日本大震災や福島原子力発電所の事故の後の第Ⅱ期後半とは同水準であり、第Ⅰ期に対しては2倍強増加している。また、修了率は64.3%で第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較して上昇している。

表 4 受講状況の推移

			年度あたり平均		2013 年度	合計
			第Ⅰ期	第Ⅱ期		
年度あたり平均	共催講座	科目数	44	44	41	407
		応募者	1203(27)	1415(32)	1086(26)	12763(31)
		受講者	1191(27)	1370(31)	1078(26)	12517(31)
		修了者	661(15)	723(16)	490(12)	6705(16)
		修了率	55.5%	52.8%	45.5%	53.6%
	関連講座	科目数	—	41	38	248
		応募者	—	2047(50)	1655(44)	9844(40)
		受講者	—	2032(50)	1622(43)	9749(39)
		修了者	—	1398(34)	1247(33)	6839(28)
		修了率	—	68.8%	76.9%	70.2%
	共催+関連	科目数	44	85	79	655
		応募者	1203(27)	3462(39)	2741(35)	22607(35)
		受講者	1191(27)	3407(38)	2700(34)	22266(34)
		修了者	661(15)	2121(25)	1737(22)	13544(21)
		修了率	55.5%	62.3%	64.3%	60.8%
	合計	科目数	221	339	79	655
		応募者	6017(27)	13848(41)	2741(35)	22607(35)
		受講者	5957(27)	13627(40)	2700(34)	22266(34)
		修了者	3307(15)	8483(25)	1737(22)	13544(21)
		修了率	55.5%	62.3%	64.3%	60.8%

注1: 第Ⅰ期の値は「化学・生物総合管理の再教育講座」として開講した2004～2008年度の5年間の
 平均値を示す。第Ⅱ期の値は2009～2012年度の4年間の平均値を示す。

注2: 括弧内は科目当りの人数。

(2) 応募者属性

応募者は、現役世代が8割以上を占め男性が女性の2倍に及んでいる。全国展開の進展とともに応募者は地域的に拡大しつつある。また第一次・二次産業に所属する応募者が過半を占めるものの、公務員、研究者、教員、学生・院生なども多く職業は多様である。毎年新規の応募者が過半を占め、上司や教育部門の指示で応募する者も多く増加傾向にある。

1) 年齢別分布

共催講座の年齢構成は、第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度の現役世代の割合は約8割とほぼ同一であり、全体的に傾向は維持されている。共催講座と関連講座の合計では大学・大学院編の学生・院生の受講に伴い20代の割合が多く現役世代が9割近くを占めている。

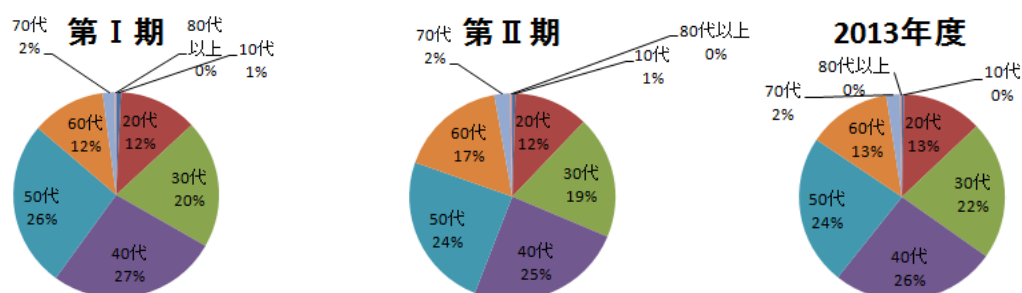


図 10-1 年齢別応募者（共催講座）（第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度）

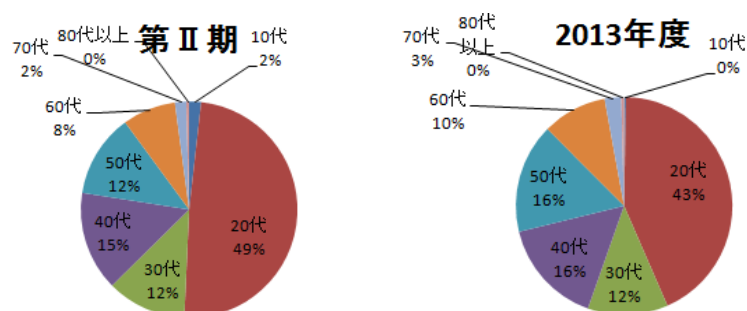


図 10-2 年齢別応募者（共催・関連講座）（第Ⅱ期、2013年度）

2) 地域別分布

2013年度の共催講座の応募者の居住地域は、関東と東京が大半を占めていることには変わらないが、第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較して開講拠点の全国展開により次第に東京と関東の割合が減少する一方で、近畿圏の割合が増加するなど全国展開が進んでいる。共催講座と関連講座の合計では、東海地域の割合が減少する一方で、関東圏と近畿圏の割合が増加している。

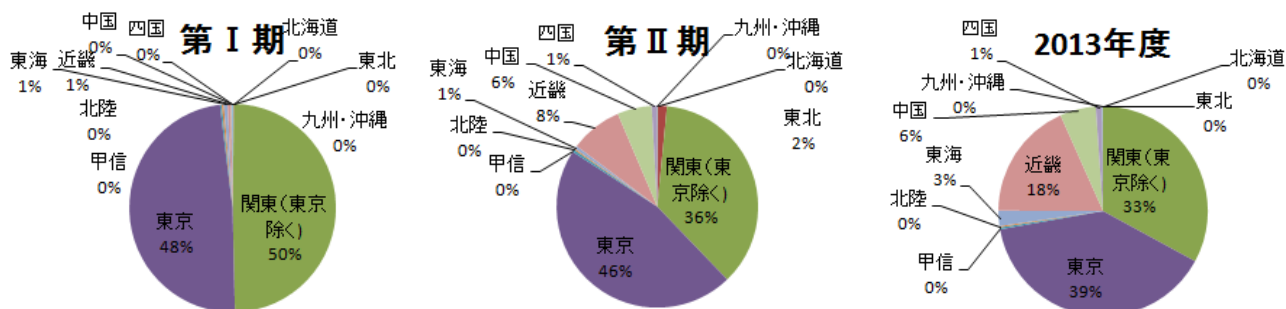


図 11-1 地域ブロック別応募者（共催講座）（第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013年度）

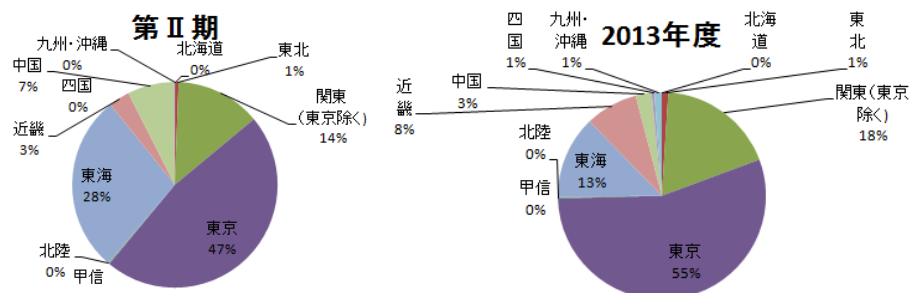


図 11-2 地域ブロック別応募者（共催・関連講座）（第Ⅱ期、2013年度）

3) 職業別分布

2013 年度の共催講座の職業別応募者は、二次産業と三次産業の合計で 70% 近くを占め第Ⅰ期、第Ⅱ期の傾向を維持している。残りの 30% 程度は研究者、教員、公務員、学生・院生はじめ社会の多様な分野からの参画であり、社会の広範な分野の者が参加している。共催講座と関連講座の合計では、学生・院生が大きな比率を占めている。第Ⅱ期の後半に名古屋市立大学の学び直し講座の定常化に伴い医療・保健が減少する一方でその他の職業の割合は増加し、講座の内容は多様な職業分野から関心を得ている。

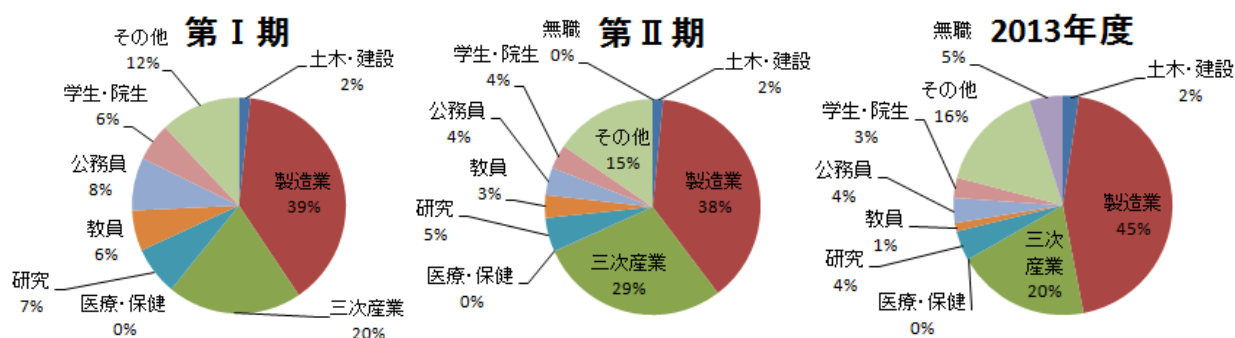


図 12-1 職業別応募者 (共催講座) (第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013 年度)

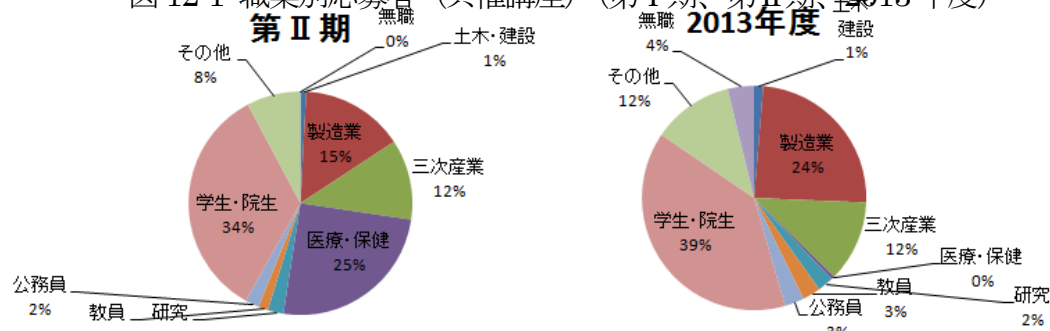


図 12-1 職業別応募者 (共催・関連講座) (第Ⅱ期、2013 年度)

4) 男女別分布

2013 年度の共催講座の男女比は、男性が約 70%、女性が約 30% であり、第Ⅰ期、第Ⅱ期と同様の傾向である。年齢構成で現役世代が約 8 割を占めていることとともに男性の比率が圧倒的に大きいことに知の市場に対する社会の評価が端的に表れており、社会に多数存在するいわゆるカルチャーセンターとは全く異なる存在として社会から認知されている。

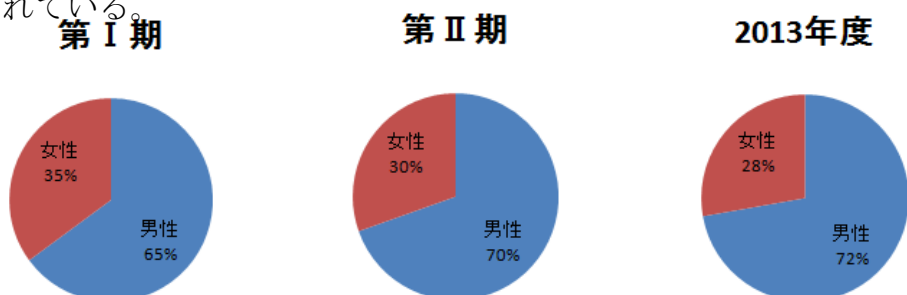


図 13 男女別応募者 (共催講座) (第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013 年度)

5) 受講回数分布

共催講座の応募者が過去に何回受講したことがあるかについては、第Ⅰ期、第Ⅱ期

と比較して 2013 年度はそれまで受講したことの無い新規の応募者が大幅に増加している。新規の開講拠点が全国で増えたことなどが新規の受講者の増加につながっており、知の市場は新たな広がりを増している。

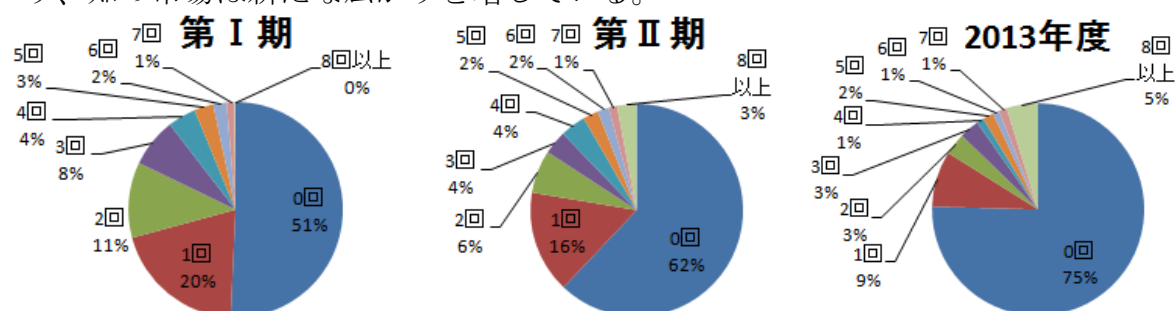


図 14 応募者の過去の受講回数（共催講座）（第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013 年度）

6) 情報源分布

2013 年度の共催講座の応募者が講座を知った情報源については、第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較してホームページの占める割合が減少する一方で上司或いは教育部門の指示が増加しており、企業や公共団体など諸々の機関において知の市場は高く評価され、実質的に研修コースとして位置づけられている。

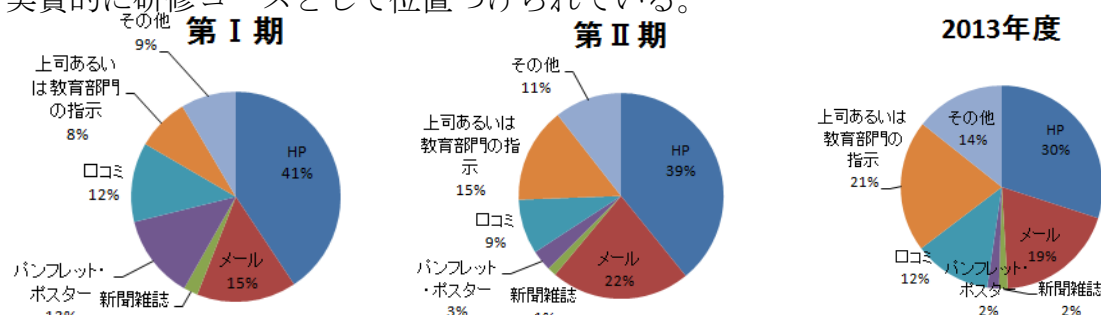


図 15 講座を知った情報源（共催講座）（第Ⅰ期、第Ⅱ期、2013 年度）

4. 点検評価

(1) 自己点検評価

47 機関の開講機関及び連携機関で協議会を構成し、運営主体として知の市場の運営の全般について相互に自己点検し自己評価している。

表 5 知の市場協議会構成員の所属内訳および人数

所属分類	機関数	人数
専門機関・研究機関	8	26
公共団体	2	3
産業界・業界団体	18	30
大学・学会	12	17
消費者団体・非営利団体他	4	8
報道機関	0	0
市民（個人）	3	28
合計	47	112

(2014 年 6 月 5 日現在)

自己点検評価の一環として、開講科目を客観的に評価して科目の改善や講座運営の合理化などに活用するため科目の終了時点で、講師に対して受講者の態度、意欲、コミュニケーション、理解度、満足度の5項目及び講座運営の全般などに関する7項目の合計12項目のアンケート調査を実施する。

また、講師の自己点検と授業の改善に活用するため15回の講義毎に毎回、受講者に対して授業の満足度、理解度、講義レベル、講師の話し方、教材の5項目についてアンケート調査を実施する。さらに、開講科目を客観的に評価して科目の改善や講座運営の合理化などに活用するため科目の終了時点で、受講者に対して受講するに至った背景や動機、満足度や理解度、授業の内容や科目の構成など34項目についてアンケート調査を実施する。

いずれの調査結果においても、過去の傾向から大きな変化はなく、知の市場は引き続き高い評価を得ている。

1) 講師による評価

講師は受講者の受講態度の良さや受講意欲の高さを評価している。また、受講者との意見交換が充分にできるなど講師自身にとっても良い経験の機会になっていると高く評価している。さらに、講義を行うことは知識の整理になり講師にとっても貴重な自己研鑽の機会であるとの評価が定着しており、企業や専門・研究機関が連携機関として科目を開講することにより自らの組織の人材育成に活かそうとする動きにつながっている。

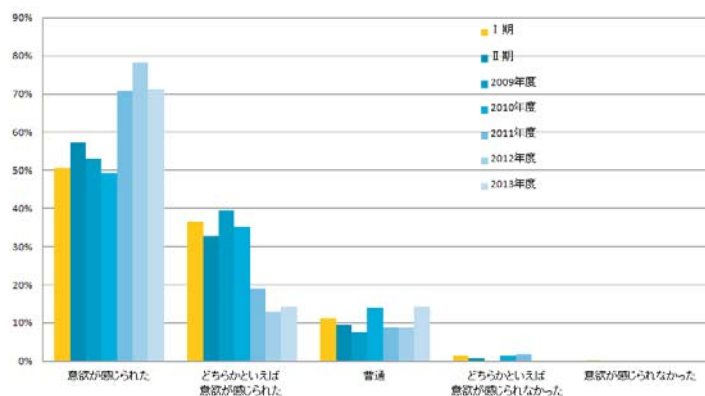


図 16 講師による受講者の受講意欲の評価（共催講座）

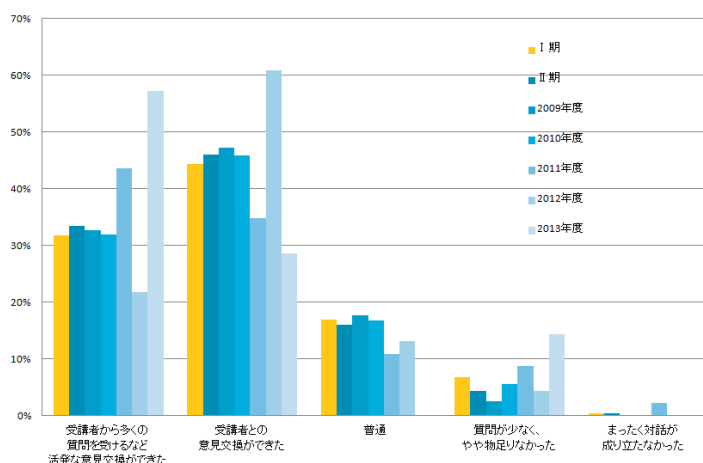


図 17 講師による受講者とのコミュニケーションの評価（共催講座）

2) 受講者による評価

受講者は講義に対して高い満足度を示し、講義に対する理解度も高い。100%近い受講者が次回も受講したい或いは他人にも講座を紹介したいと答えており、知の市場は社会から高い評価を受けている。また、受講者の大多数が職業に係る知識の修得において役立つのみならず自らの教養を高めたり学習の充実感を得る上で有益であると評価しており、現代社会と世界動向を理解するための教養を醸成するという知の市場の目的は社会で広く受け入れられている。

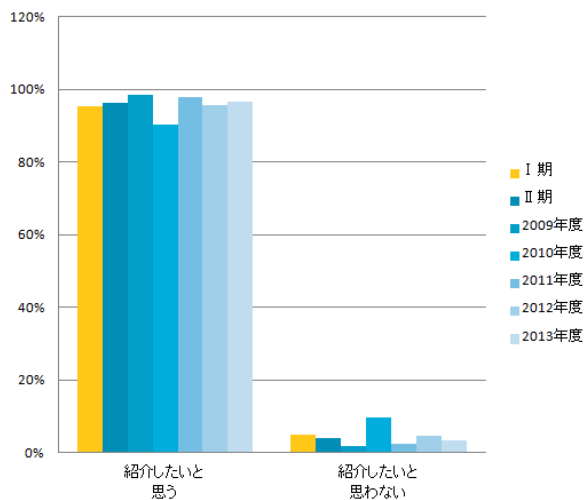


図 18 受講者の他人へ紹介（共催講座）

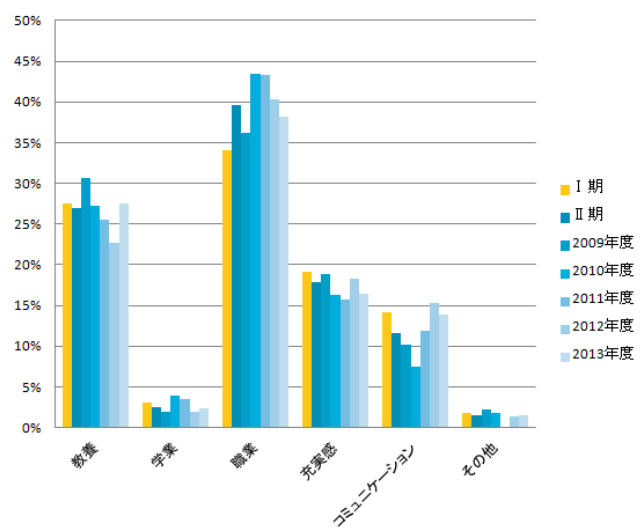


図 19 受講が役立った点（共催講座）

（２）評価委員会による外部評価

外部有職者などによって構成する評価委員会を設置し、自己点検評価の結果を検証し、講座の運営、科目の構成などについて不断に評価し改善に努めている。2014 年度は 2013 年度と比べて 1 名増加し 59 名により評価委員会を構成する。2014 年度知の市場評価委員会構成員を別表に示す。

表 6 知の市場評価委員会構成員の所属内訳および人数

所属分類	人数
専門機関・研究機関	6
公共団体	2
産業界・業界団体	13
大学・学会	19
消費者団体・非営利団体他	1
報道機関	5
市民（個人）	13
合計	59

（2014 年 6 月 5 日現在）

（３）年次大会の開催

2009 年度以降、社会の現場を担う者が自己研鑽に励みつつ人材育成や教育に参画している姿を社会に広く提示すること、社会の多彩な意見を吸収する機会を確保し幅広い人々の検証を受けること、密接なコミュニケーションにより認識の共有化を図る場を提供することなどを通して知の市場の発展に資することを目的として、知の市場の運営に携わる関係者が当該年度の活動の実績や次年度の計画などを広く社会に対して報告し公開する年次大会を開催している。

これまで延べ 379 名の参画のもと、文部科学省文部科学審議官 板東久美子氏、放送大学理事長・日本オープンオンライン教育推進協議会理事長（前早稲田大学総長）白井克彦氏などの 3 名の特別講演や 11 個人と 8 機関の奨励賞受賞記念講演を行うとともに延べ 75 機関が開講の実績や計画などについて報告を行った。

（４）奨励賞の授与

知の市場における自己研鑽とその成果を活用する活動及び人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に資する活動を奨励することを目的として、2010 年度から奨励賞を授与している。自薦・他薦及び開講や受講の実績調査などに基づき知の市場協議会における審議と知の市場評価委員会における確認を経て選考する。

これまで、知の市場で受講し自己研鑽に励みかつその成果を社会に活用した者として河端茂氏の 1 名、開講機関や連携機関として人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に係る活動に参画した機関として国立感染症研究所、化学工学会 SCE・Net、主婦連合会、農業生物資源研究所、日本獣医師会、製品評価技術基盤機構、名古屋市立大学の 7 機関、講師として人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に係る活動に参画した者として上路雅子氏、永山敏廣氏、尾崎圭介氏、保利一氏、星川欣孝氏、服部道夫氏、津田洋幸氏、山崎徹氏、長田敏氏、堀中新一氏の 10 名、受講者を多く輩出し人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に貢献した機関としてお茶の水女子大学の 1 機関に奨励賞を授与した。これによって奨励賞の授賞者は 11 個人と 8 機関の合計 19 件に達するが、2014 年度も引き続き、知の市場協議会会員などによる授賞候補者の自薦他薦及び知の市場における自己研鑽や活動の実績調査に基づき、知の市場協議会における審議と知の市場評価委員会における確認を経て授賞者を選考して奨励賞を授与する。

表 7 奨励賞授与の実績

年度	受講者		講師	参画・協力機関	
	個人	機関		開講／連携機関	連携機関のみ
2010	1	—	0	3	0
2011	0	—	3	2	1
2012	0	—	5	1	0
2013	0	1	2	0	0

（2014 年 6 月 5 日現在）

5. 今後の課題

「知の市場」は今後も恒常的に教育内容の向上に努める。また、連携機関の拡充を図って開講分野を拡大し、現代社会と世界動向を理解するために必要なより広範で総合的な自己研鑽の機会を提供する。さらに開講機関の拡充を図って開講拠点の全国展開をさらに進め、自己研鑽の機会の日常化と普遍化を推進していく。

また、第Ⅰ期、第Ⅱ期の実績を踏まえつつ、第Ⅲ期は社会を構成する多彩な者が自主的に参画する活動として「知の市場」がさらに自立的にして自律的に発展していくための基盤を確立することを目指す。そのため、活動の簡素化と合理化を一層推進するとともに、知の市場の活動の透明性をさらに高めつつ双方向のコミュニケーションを強化して認識の共有化を促進し連携と共働を強化する。

【知の市場評価委員会構成員一覧】

委員名（敬称略）	所属	肩書	分類
相澤益男	科学技術振興機構	顧問（東京工業大学元学長・元総合科学技術会議議員）	大学
阿尻雅文	東北大学 未来科学技術共同研究センター	教授	大学
阿南忠明			市民
阿部博之	科学技術振興機構	顧問（東北大学元総長・元総合科学技術会議議員）	大学
磯知香子			市民
市古夏生	お茶の水女子大学	理事、副学長（総務機構長）	大学
今給黎佳菜			市民
内ヶ崎功	日立化成	元社長・元会長	産業界
大川秀郎	中国農業科学院油糧作物研究所	特聘教授（神戸大学名誉教授）	大学
大川原正明	大川原化工機	社長	産業界
大久保明子	住友ベークライト	S-パイオ開発部	産業界
大森亜紀	読売新聞東京本社 編集局生活情報部	記者	報道機関
梶山千里	福岡女子大学	理事長兼学長（元九州大学総長）	大学
軽部征夫	東京工科大学	学長（東京大学名誉教授）	大学
河端茂	YKK AP	商品品質センター（奨励賞受賞者）	産業界
神田尚俊	東京農工大学	名誉教授	大学
菊田安至	福山大学 社会連携研究推進センター	教授	大学
岸田春美			市民
岸田文雄			市民
北野大	淑徳大学	教授	大学
倉内憲孝	住友電工	名誉顧問	産業界
桑原洋	日立製作所	元副会長	産業界
倉田毅	国際医療福祉大学	教授（元国立感染症研究所長）	専門機関
小出重幸	元読売新聞	元読売新聞編集委員	報道機関
小宮山宏	三菱総合研究所	理事長（前東京大学総長）	大学
白井克彦	放送大学学園	理事長（前早稲田大学総長）	大学
高橋俊彦	J S R	環境安全部	産業界
舘かおる	お茶の水女子大学	名誉教授・ジェンダー研究センター客員研究員	大学
田部井豊	農業生物資源研究所	遺伝子組換え研究推進室長	専門機関
辻篤子	朝日新聞社	論説委員	報道機関
津田喬子	名古屋市立東部医療センター東市民病院	名誉院長	大学
常盤豊	文部科学省	大臣官房審議官	公共団体
中島幹	綜研化学	会長	産業界
中島邦雄	化学研究評価機構	理事長（政策研究大学院大学名誉教授）	専門機関
永田裕子	みずほ情報総研	コンサルティング業務部次長	専門機関
長野庵士	西村あさひ法律事務所	弁護士	専門機関
中村幸一			市民
中村雅美			市民
西野仁雄	名古屋市立大学	前学長	大学
野中哲昌	ダイセル	生産技術室専門部長兼プロセス革新センター主幹部員	産業界
橋都なほみ	じほう	編集主幹	報道機関
服田昌之	お茶の水女子大学	准教授	大学
板東久美子	文部科学省	文部科学審議官	公共団体
樋口敬一			市民
日和佐信子	雪印メグミルク	社外取締役（元消費者団体連絡会事務局長）	消費者団
福永忠恒			市民
保利一	産業医科大学	産業保健学部長	大学
前田浩平	三洋化成工業	執行役員	産業界
増田和子	増田襄和堂	表具師	市民
三浦千明			市民
溝口忠一			市民
向殿政男	明治大学	校友会長	大学
村田康博	YKK		産業界
守谷恒夫	住友ベークライト	元社長・元会長	産業界
保田浩志	国連科学委員会事務局	プロジェクトマネージャー	専門機関
山下俊一	長崎大学大学院歯歯薬学総合研究科	教授	大学
山本佳世子	日刊工業新聞社	論説委員兼編集委員	報道機関
結城命夫			市民
吉田淑則	JSR	元社長・前会長	産業界

2014年6月5日現在 合計 59 名

注: 評価委員は個人の資格で評価委員会に参画し、個人としての見識に基づいて意見を述べる。

【体系と機能】

Free Market of by for Wisdom

Voluntary Open Network Multiversity

知の市場

「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として
実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して
人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自律的に集う場

友の会

連携学会

協力者・協力機関

有志学生実行委員会

知の市場事務局

協議会

評価委員会

共
催
講
座

東京・お茶の水女子大学

お茶の水女子大学ライブラリ・ウォッチャーセンター増田研究室、知の市場

お茶の水女子大学(東京・トロ茗荷谷駅、護国寺駅)
前期3科目、後期7科目、計10科目開講

東京・放送大学文京学習センター

知の市場、放送大学(協賛)

放送大学文京学習センター(東京・トロ茗荷谷駅)
通年1科目、前期1科目、後期2科目、計4科目開講

東京・西早稲田(1)労研

労働科学研究所、早稲田大学規範科学総合研究所

早稲田大学西早稲田キャンパス(東京・トロ西早稲田駅)
前期1科目、後期3科目、計4科目開講

埼玉・狭山

狭山商工会議所、狭山市

狭山市産業労働センター(西武新宿線狭山市駅前)
前期1科目、後期2科目、計3科目開講

大阪・千里山

日本リスクマネジメントネットワーク

関西大学千里山キャンパス(阪急千里線関大前駅)
後期2科目、計2科目開講

鳥取・倉吉

動物臨床医学研究所

動物臨床医学研究所又は伯耆しあわせの郷(JR倉吉駅)
前期1科目、後期1科目、計2科目開講

東京・戸山

国立感染症研究所

国立感染症研究所(東京・トロ早稲田駅、若松河田駅)
前期1科目、後期1科目、計2科目開講

東京・丸の内

日本リファイン

日本リファイン(JR・東京・トロ東京駅)
前期2科目、計2科目開講

東京・日本橋室町

三井不動産、お茶の水女子大学ライブラリ・ウォッチャーセンター(増田研究室)

三井別荘(東京・トロ三越前駅、JR新日本橋駅)
前期1科目、後期1科目、計2科目開講

京都・京都大学放射線生物研究センター

京都大学放射線生物研究センター、ひと・健康・未来研究財団

京都大学放射線生物研究センター(京阪線神宮丸太町駅)
前期1科目、後期1科目、計2科目開講

東京・九段

早稲田リーガルコミュニティ法律事務所

早稲田リーガルコミュニティ法律事務所(東京・トロ九段下駅)
前期1科目、後期1科目、計2科目開講

東京・大岡山

知の市場

東京工業大学大岡山キャンパス(京浜東北線・目黒線大岡山駅)
前期1科目、計1科目開講

大阪・関西大学高槻

製品評価技術基盤機構、関西大学社会安全学部、関西消費者連合会

関西大学高槻ミュージアムキャンパス(JR高槻駅)
前期1科目、計1科目開講

東京・西早稲田(2)主婦連

主婦連合会、製品評価技術基盤機構、
早稲田大学規範科学総合研究所

早稲田大学西早稲田キャンパス(東京・トロ西早稲田駅前)
後期1科目、計1科目開講

東京・四ツ谷(1)主婦連

主婦連合会、製品評価技術基盤機構

主婦会館(JR・東京・トロ四ツ谷駅前)
前期1科目、計1科目開講

東京・幡ヶ谷

製品評価技術基盤機構

製品評価技術基盤機構(京王新線幡ヶ谷駅)
後期1科目、計1科目開講

東京・四ツ谷(2)生物研

農業生物資源研究所

主婦会館(JR・東京・トロ四ツ谷駅前)
後期1科目、計1科目開講

東京・八重洲

東洋システム

東京駅前カンパレンセンター(JR・東京・トロ東京駅)
前期1科目、計1科目開講

関
連
講
座

I
教
養
編

東京・茗荷谷

化学工学会SCB・Net

お茶の水女子大学(東京・トロ茗荷谷駅、護国寺駅)
前期1科目、後期3科目、計4科目開講

愛知・名古屋市立大学(1)健康

名古屋市立大学健康科学講座オープンカレッジ

名古屋市立大学川瀬キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅)
3期制、計3ユニット開講

大分・大分大学

大分大学教育福祉科学部・都甲研究室

大分大学(JR大分大学前駅)
後期2ユニット、計2ユニット開講

東京・筑波大学東京キャンパス

筑波大学大学院・渡辺研究室

筑波大学東京キャンパス文京校舎(東京・トロ茗荷谷駅)
前期1科目、後期1科目、計2科目開講

千葉・千葉

千葉市科学館

千葉市科学館(京成線千葉中央駅)
前期1ユニット、後期1ユニット、計2ユニット開講

鹿児島・鹿児島

知の市場

鹿児島市の経済を考える会・桜ちようちんフェスタ実行委員会(鹿児島市)
前期2ユニット、計2ユニット開講

鹿児島・枕崎

知の市場

鹿児島水産高等学校・水産加工業協同組合(枕崎市)
前期2ユニット、計2ユニット開講

東京・早稲田駅

日本獣医師会、早稲田大学規範科学総合研究所、
早稲田大学規範科学総合研究所

早稲田大学早稲田キャンパス(東京・トロ早稲田駅)
前期1科目、計1科目開講

東京・関西大学東京センター

関西大学社会安全学部

関西大学東京センター(JR東京駅、東京・トロ大手町駅)
前期1科目、計1科目開講

東京・日本中央競馬会

日本中央競馬会

浅草パークホール(つくばエクスプレス浅草駅)
後期1ユニット、計1ユニット開講

II
専
門
編

愛知・名古屋市立大学(2)学びなおし

名古屋市立大学学びなおし支援センター

名古屋市立大学川瀬キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅)
2期制、各期3科目、計6科目開講

東京・明治大学

明治大学リベリアアカデミー、明治大学安全学研究所、
明治大学大学院理工学研究科新領域創造専攻

明治大学駿河台校舎リベリアタワー(JR御茶ノ水駅)
前期1科目、後期1科目、計2科目開講

神奈川・川崎宮前区

労働科学研究所

労働科学研究所(横浜市宮前地下鉄あざみ野駅からバス)
後期1科目、計1科目開講

III
研
修
編

埼玉・狭山元気プラザ

アダムジャパン、狭山商工会議所、狭山市

狭山元気プラザ、アダムジャパン(西武新宿線狭山市駅からバス)
後期1科目、計1科目開講

福島・いわき

東洋システム

東洋システム(JR湯本駅)
通年1科目、計1科目開講

IV
大
学
・
大
学
院
編

東京・早稲田大学先進理工学部

早稲田大学先進理工学部

4科目開講

東京・早稲田大学共同先進健康科学専攻

早稲田大学先進理工学研究科共同先進健康科学専攻

2科目開講

東京・お茶の水女子大学学部

お茶の水女子大学

3科目開講

東京・明治大学理工研究科

明治大学大学院理工学研究科新領域創造専攻

2科目開講

東京・筑波大学大学院

筑波大学大学院・渡辺研究室

2科目開講

東京・東京工業大学理工研究科

東京工業大学大学院理工学研究科化学工学専攻

1科目開講

2014年度 前期

公開講座「知の市場」の機関別開講科目一覧

■共催講座

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
東京・お茶の水女子大学 知の市場 開講機関：お茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター(増田研究室) 会場：お茶の水女子大学(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)					
CT136	規範科学事例研究 1	新 化学生物総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会	社会の諸々のリスク・マネジメントの実際を検証する	水	18:30-20:30
東京・お茶の水女子大学 知の市場 開講機関：知の市場 会場：お茶の水女子大学(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)					
UT134	化学物質総合経営学基礎論	化学生物総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会	健康・環境リスクをめぐる国際的な論議を踏付けながら化学物質管理を付加価値の創造に繋げる道を探る	水集中	13:20-16:30
UT516	社会技術革新学基礎論	新 社会技術革新学会社会技術革新学基礎教育研究会	社会変革と技術革新の歴史を検証し付加価値を生み出すイノベーションの神髄を探る	水集中	13:20-16:30
東京・放送大学文京学習センター 知の市場 開講機関：知の市場/放送大学(協賛) 会場：放送大学東京文京学習センター(地下鉄茗荷谷駅)					
UT455	サステナビリティ学入門	新 鈴木基之	環境からみる持続可能性を論じる	木通年	14:00-18:00
UT812	プロフェッショナル論	放送大学	楽しく豊かな人生を創造するプロフェッショナルの心得	金集中	14:00-18:00
東京・西早稲田(1) 労研 知の市場 開講機関：労働科学研究所/早稲田大学規範科学総合研究所 会場：早稲田大学西早稲田キャンパス(地下鉄西早稲田駅前)					
RT421	労働科学	労働科学研究所	産業保健の基礎：労働科学の歴史と展開	土集中	11:00-17:50
東京・丸の内 知の市場 開講機関：日本リファイン 会場：日本リファイン(JR東京駅)					
ET572	コーポレート・ガバナンス	社会技術革新学会法制教育研究会	国際比較の視点からみた株式会社の組織と運営の課題	水	18:00-20:00
ET133	化学物質総合経営学概論	化学生物総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会	化学物質総合管理を目指す国際協調活動に学ぶ →新たに制定すべき包摂法の基本的枠組みと付加価値を生み出す次の一手	木	18:00-20:00
埼玉・狭山 知の市場 開講機関：狭山商工会議所/狭山市 会場：狭山市産業労働センター(西武新宿線狭山市駅前)					
YB611b	狭山を学ぶ 企業編b	狭山商工会議所/狭山市	狭山を彩るものづくり企業シリーズb - 狭山工業団地エリア編 -	木	調整中
鳥取・倉吉 知の市場 開講機関：動物臨床医学研究所 会場：動物臨床医学研究所又は伯耆しあわせの郷(JR倉吉駅)					
ZY221	動物臨床医学事例研究i	動物臨床医学研究所	臨床現場に有用な症例検討のあり方 1	日	9:30--16:50
東京・戸山 知の市場 開講機関：国立感染症研究所 会場：国立感染症研究所(地下鉄早稲田駅・若松河田駅)					
PT211a	感染症総合管理 1a	国立感染症研究所	感染症との闘いー現在問題となっている感染症ー	火	18:30~20:30
東京・日本橋室町 知の市場 開講機関：三井不動産/お茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター(増田研究室) 会場：三井別館(地下鉄三越前駅・JR新日本橋駅)					
GT712	国際企業特論 1	社会技術革新学会社会技術革新学教育研究会	多様化する化学産業における基本技術と事業のグローバル化	水	18:30-20:30
東京・九段 知の市場 開講機関：早稲田リーガルコモンズ法律事務所 会場：早稲田リーガルコモンズ法律事務所(地下鉄九段下駅)					
QE573	現代環境法入門	第二東京弁護士会環境法研究会	環境法制の生成・発展と公害・環境訴訟から環境法制のあり方を考える	木	18:30-20:30
東京・大岡山 知の市場 開講機関：知の市場 会場：東京工業大学大岡山キャンパス(東急大井町線・目黒線大岡山駅)					
UE535	資源・エネルギー・安全基礎論	新 社会技術革新学会石油サウジアラビア教育研究会	技術革新と社会変革に深く係る資源・エネルギーとリスク管理のための社会的規範を巡る世界の動向を語る	金集中	13:20-18:10
京都・京都大学放射線生物研究センター 知の市場 開講機関：京都大学放射線生物研究センター/ひと・健康・未来研究財団 会場：京都大学放射線生物研究センター(地下鉄・近鉄・JR京都駅からバス)					
NC466	放射線生物学	京都大学放射線生物研究センター/ひと・健康・未来研究財団	放射線は生命の謎を解く鍵	金集中	18:00-21:00
大阪・関西大学高槻 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構/関西大学社会安全学部/関西消費者連合会 会場：関西大学高槻ミューズキャンパス(JR高槻駅)					
SK441	製品総合管理特論	製品評価技術基盤機構	製品安全対策の基礎知識	金	18:00-20:00
東京・四ツ谷(1) 主婦連 開講機関：主婦連合会/製品評価技術基盤機構 会場：主婦会館(JR四ツ谷駅前)					
FT125	化学物質総合管理特論	主婦連合会/製品評価技術基盤機構	化学物質に関するリスク評価とリスク管理の基礎知識	火	18:30-20:30
東京・八重洲 知の市場 開講機関：東洋システム 会場：東京駅前カンファレンスセンター(JR東京駅)					
BT515	社会技術革新学事例研究 1	社会技術革新学会リチウム電池教育研究会	リチウムイオン 2 次電池開発の歴史に見る技術革新と経営革新の成否の要因	金	18:30-20:00

■関連講座 (大学・大学院編を除く)					
No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
東京・茗荷谷 知の市場 開講機関：化学工学会SCE・Net 会場：お茶の水女子大学(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)					
VT465a	原子力・放射能基礎論	新 化学工学会SCE・Net	原子力と放射能の基礎から応用までを学ぶ	土集中	13:00-17:10
愛知・名古屋市立大学(1) 健康 開講機関：名古屋市立大学健康科学講座オープンカレッジ 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス(地下鉄桜山駅前)					
教養編	第1期講座・第2期講座	名古屋市立大学大学院医学研究科		金	18:30-20:00
東京・早稲田駅 知の市場 開講機関：日本獣医師会/早稲田大学規範科学総合研究所/早稲田総研インターナショナル 会場：早稲田総研インターナショナル(地下鉄早稲田駅)					
WT221	動物総合管理 1	日本獣医師会	獣医さんが解説する動物の病気と管理	木	18:30-20:00
東京・関西大学東京センター 知の市場 開講機関：関西大学社会安全学部 会場：関西大学東京センター (JR東京駅・地下鉄大手町駅)					
LE472	社会安全学	新 関西大学社会安全学部	安全・安心社会と社会安全学	木	18:00-20:00
愛知・名古屋市立大学(2) 学びなおし 知の市場 開講機関：名古屋市立大学学びなおし支援センター 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス(地下鉄桜山駅前)					
14-101~14-103	春季講座	名古屋市立大学学びなおし支援センター		火・木	18:30-20:00
東京・明治大学 知の市場 開講機関：明治大学リハビリアカデミー/明治大学安全学研究所/明治大学大学院理工学研究科新領域創造専攻 会場：明治大学リハビリタワー(JR・地下鉄御茶ノ水駅)					
IT443a	安全学入門	明治大学大学院理工学研究科新領域創造専攻/明治大学リハビリアカデミー	安全を総合的に、包括的に考える	土集中	13:00-16:10
東京・筑波大学 東京キャンパス知の市場 開講機関：筑波大学大学院・遠辺研究室 会場：筑波大学東京キャンパス(茗荷谷駅)					
教養編	サイエンスコミュニケーション実践論	新 筑波大学大学院・遠辺研究室/日本サイエンスコミュニケーション協会		月	
千葉・千葉 知の市場 開講機関：千葉市科学館 会場：千葉市科学館(京成千葉中央駅)					
TD307a	サイエンスコミュニケーション実践論a	新 千葉市科学館			
鹿児島・鹿児島 知の市場 開講機関：知の市場 会場：鹿児島県鹿児島市					
615a	地域力論a	新 社会技術革新学会社会技術革新学教育研究会		集中	
723a	日本力論a	新 社会技術革新学会社会技術革新学教育研究会		集中	
鹿児島・枕崎 知の市場 開講機関：知の市場 会場：鹿児島市枕崎市					
615b	地域力論b	新 社会技術革新学会社会技術革新学教育研究会		集中	
723b	日本力論b	新 社会技術革新学会社会技術革新学教育研究会		集中	
福島・いわき 知の市場 開講機関：東洋システム 会場：東京駅前カンファレンスセンター(JR東京駅)					
BF517	国際競争力論	新 社会技術革新学会社会技術革新学教育研究会		通年	

知の市場ホームページ <http://www.chinoichiba.org/>に、シラバス(講義内容)を掲載していますが、最新版のシラバスは各開講機関ホームページから確認してください。

◆問合せ ◆ 各開講機関までお問い合わせください。問合せ先は、本リーフレットリンク先もしくは知の市場ホームページからご確認ください。

2014年度 後期

公開講座「知の市場」の機関別開講科目一覧

■ 共催講座

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
東京・お茶の水女子大学 知の市場 開講機関：お茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター(増田研究室) 会場：お茶の水女子大学(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)					
CT574	法学入門	新 社会技術革新学会法制教育研究会	実践的考察を通じリーガルマインドの涵養	水	18:30-20:30
CT137	化学物質総合経営学事例研究1	新 化学生物総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会	国際的枠組みと企業の自主管理活動を検証	水	18:30-20:30
CT541	金融特論2	新 社会技術革新学会金融教育研究会	金融におけるリスクとリターンを正体を探る	水	18:30-20:30
東京・お茶の水女子大学 知の市場 開講機関：知の市場 会場：お茶の水女子大学(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)					
UT135	規範科学基礎論	化学生物総合管理学会化学物質総合経営学基礎教育研究会	文理融合の視点をもつ規範科学 (レギュラトリー・サイエンス) を健康や環境へのリスクの評価と管理を例題に論じる	水集中	13:20-16:30
UT425	労働衛生管理	新 武田労働衛生コンサルタント事務所	職場における労働衛生の基本を実践的に語る	水集中	13:20-16:30
UT551	知的財産権論	プロメテ国際特許事務所	知的財産権制度の基本と各国の特徴	水	18:30-20:30
UT114	化学物質リスク評価	新 花井リスク研究所	必要な情報やデータをどう入手し活用するか	木	18:30-20:30
東京・放送大学文京学習センター 知の市場 開講機関：知の市場/放送大学(協賛) 会場：放送大学東京文京学習センター(地下鉄茗荷谷駅)					
UT433	食と農業の安全論	新 化学生物総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会	食と農業の安全を科学的に考え信頼の原点をさぐる	木集中	14:00-18:00
UT812	プロフェッショナル論	放送大学	楽しく豊かな人生を創造するプロフェッショナルの心得	金集中	14:00-18:00
東京・西早稲田(1) 労研 知の市場 開講機関：労働科学研究所/早稲田大学規範科学総合研究所 会場：早稲田大学西早稲田キャンパス(地下鉄西早稲田駅前)					
RT422a	労働科学特論a	労働科学研究所	産業安全保健エキスパート養成コース(安全)	木金土集中	9:30-18:30
RT422b	労働科学特論b	労働科学研究所	産業安全保健エキスパート養成コース(健康)	木金土集中	9:30-18:30
RT422c	労働科学特論c	労働科学研究所	産業安全保健エキスパート養成コース(職場環境)	木金土集中	9:30-18:30
埼玉・狭山 知の市場 開講機関：狭山商工会議所/狭山市 会場：狭山市産業労働センター(西武新宿線狭山市駅前)					
YB614a	狭山を学ぶ 教育編a	狭山商工会議所/狭山市	中学生における経済キャリア教育1(対象：狭山市内中学生・公募)	土集中	13:00-17:00
YB612b	狭山を学ぶ ものづくり編b	新 狭山商工会議所/狭山市/狭山市茶業協会	グローバルブランドを目指す狭山茶の全てを学ぶ	火	10:00-12:00
鳥取・倉吉 知の市場 開講機関：動物臨床医学研究所 会場：動物臨床医学研究所又は伯耆しあわせの郷(JR倉吉駅)					
ZY222j	動物臨床医学事例研究j	動物臨床医学研究所	臨床現場に有用な症例検討のあり方2	日	09:30-15:10
大阪・千里山 知の市場 開講機関：日本リスクマネジメントネットワーク 会場：関西大学千里山キャンパス(阪急電鉄関大駅前)					
JK131b	防疫薬総合管理	日本環境動物昆虫学会	身近な生活・環境害虫防除ー世界をリードする防疫薬と害虫防除技術ー	月	18:15-20:15
JK454	環境基礎論	日本リスクマネジメントネットワーク	市民の環境問題入門	火	18:15-20:15
東京・戸山 知の市場 開講機関：国立感染症研究所 会場：国立感染症研究所(地下鉄早稲田駅・若松河田駅)					
PT211b	感染症総合管理1b	国立感染症研究所	感染症対策ーワクチンを中心にー	火	18:30-20:30
東京・日本橋室町 知の市場 開講機関：三井不動産/お茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター(増田研究室) 会場：三井別館(地下鉄三越前駅・JR新日本橋駅)					
GT131a	農業総合管理	化学生物総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会	農業のベネフィットとリスクの総合管理の実践	水	18:30-20:30
東京・九段 知の市場 開講機関：早稲田リーガルコモンズ法律事務所 会場：早稲田リーガルコモンズ法律事務所(地下鉄九段駅前)					
QE444	医薬総合管理	武田薬品工業	医薬品研究開発の戦略とプロセス	土集中	12:00-18:00
京都・京都大学放射線生物研究センター 知の市場 開講機関：京都大学放射線生物研究センター/ひと・健康・未来研究財団 会場：京都大学放射線生物研究センター(地下鉄・近鉄・JR京都駅からバス)					
NC466	放射線生物学	京都大学放射線生物研究センター/ひと・健康・未来研究財団	放射線は生命の謎を解く鍵	金集中	18:00-21:00
東京・西早稲田(2) 主婦連 知の市場 開講機関：主婦連会合/製品評価技術基盤機構/早稲田大学規範科学研究所 会場：早稲田大学西早稲田キャンパス(地下鉄西早稲田駅前)					
ST441	製品総合管理特論	製品評価技術基盤機構	製品安全対策の基礎知識	火	18:30-20:30
東京・横ヶ谷 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構 会場：製品評価技術基盤機構(京王新線横ヶ谷駅)					
SE232	バイオ安全特論	製品評価技術基盤機構	微生物資源の活用とバイオ安全の基礎知識	金	18:30-20:30
東京・四ツ谷(2) 生物研 知の市場 開講機関：農業生物資源研究所 会場：主婦会館(JR四ツ谷駅前)					
AT231	農業生物資源特論	農業生物資源研究所	バイオテクノロジーで拓く食料、医療などの農業生物資源の利用と未来	木	18:30-20:30

■ 開講講座

(大学・大学院編を除く)

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
東京・茗荷谷 知の市場 開講機関：化学工学会SCE・Net 会場：お茶の水女子大学(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)					
VT532	エネルギーシステム論	新 NPOブルーアース	エネルギーの供給と利用の変革	土集中	10:00-12:00
VT456	環境特論	新 化学工学会SCE・Net	環境問題の実態と先進技術の展開ー事例を中心にー	土集中	13:00-17:10
VT523c	化学工業特論	新 化学工学会SCE・Net	社会を支える化学工業とその製品群	土集中	13:00-15:00
愛知・名古屋市立大学(1) 健康 知の市場 開講機関：名古屋市立大学健康科学講座オープンカレッジ 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス(地下鉄桜山駅前)					
教養編	第3期講座	名古屋市立大学大学院医学研究科		金	18:30-20:00
大分・大分大学 知の市場 開講機関：大分大学教育福祉科学部 会場：大分大学(JR豊肥本線大分大学駅前)					
教養編	多様性論	社会技術革新学会多様性基礎教育研究会	サウジアラビアとブータンにおける経験をもとに社会の多様性を論じる	集中	未定
教養編	規範科学論	化学生物総合管理学会化学物質総合経営学基礎教育研究会	社会的規範と技術革新の関係論を論じる	集中	未定
愛知・名古屋市立大学(2) 学びなおい 知の市場 開講機関：名古屋市立大学学びなおい支援センター 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス(地下鉄桜山駅前)					
14・201ー203	秋季講座	名古屋市立大学学びなおい支援センター		火・木	18:30-20:00
東京・明治大学 知の市場 開講機関：明治大学リハビリアカデミー/明治大学安全学研究所/明治大学大学院理工学研究科新領域創造専攻 会場：明治大学リハビリタワー(JR・地下鉄御茶ノ水駅)					
IT443b	製品機械安全特論	明治大学大学院理工学研究科新領域創造専攻/明治大学リハビリアカデミー	製品と機械のリスクアセスメントについて考える	土集中	13:00-16:10
神奈川・川崎宮前区 知の市場 開講機関：労働科学研究所 会場：労働科学研究所(小田急向ヶ丘公園駅・横浜市営地下鉄あざみ野駅からバス)					
RS422d	労働科学特論実習1	労働科学研究所	産業安全保健エキスパート養成最終コース(現場実習)	木金集中	10:00-17:00
埼玉・狭山元氣プラザ 知の市場 開講機関：アダムジャパン/狭山商工会議所/狭山市 会場：狭山元氣プラザ又はアダムジャパン(西武新宿線狭山市駅からバス)					
YB612a	狭山を学ぶ ものづくり編a	アダムジャパン/狭山商工会議所/狭山市	世界に羽ばたくバリエーションのすべて	水	16:30-18:30
東京・筑波大学 東京キャンパス知の市場 開講機関：筑波大学大学院・渡辺研究室 会場：筑波大学東京キャンパス(茗荷谷駅)					
教養編	リスクコミュニケーション入門	新 筑波大学大学院・渡辺研究室/日本サイエンスコミュニケーション協会		月	18:30-20:30
千葉・千葉 知の市場 開講機関：千葉市科学館 会場：千葉市科学館(京成千葉中央駅)					
TD307b	サイエンスコミュニケーション実践論b	新 千葉市科学館	サイエンスコミュニケーションの理論と実践	土	13:30-15:30
東京・日本中央競馬会 知の市場 開講機関：日本中央競馬会 会場：東京・浅草パークホール(浅草駅)					
HT921	実践競走馬学	新 日本中央競馬会	馬はどのような生き物か、競馬とサラブレッドの魅力を語る	木	18:15-20:15

知の市場ホームページ <http://www.chinoichiba.org/>に、シラバス(講義内容)を掲載していますが、最新版のシラバスは各開講機関ホームページから確認してください。

◆ 問合せ ◆ 各開講機関までお問合わせください。問合せ先は、本リーフレットリンク先もしくは知の市場ホームページからご確認ください。